

## 平成27年度第2回島根県農政審議会概要

【日 時】平成28年3月17日（木）13:30～16:00

【場 所】松江市殿町 タウンプラザしまね 6階 大会議室2

【出席委員】谷口委員、前田委員、反田委員、佐々木委員、井尻委員、藤江委員、吉川委員、渡邊委員、米原委員、高橋委員、領家委員（11名）

【県出席者】坂本農林水産部長、多久和農林水産部参事、栗原農業経営課長、森上農畜産振興課長、山本農産園芸課食の安全推進室長、田邊畜産課長、日下しまねブランド推進課長、中藤農村整備課長、高橋農地整備課長、今岡森林整備課鳥獣対策室長、長野農林水産総務課管理監、持田東部農林振興センター所長、ほか関係職員

### 【審議会概要】

1. 開 会 事務局より開会

2. 農林水産部部長あいさつ 坂本部長

3. 議事

(1) 新たな農林水産業・農山漁村活性化計画次期戦略プランについて  
県側から説明

①平成28年1月初め時点からの主な変更点について

・雲南圏域の地域プロジェクト「雲南地域の水田農業の維持・発展プロジェクト」に「鳥獣対策」の取り組みを新たに追加する。

②県共通プロジェクトについて

資料1

③地域プロジェクトについて

資料2

④パブリックコメント及び各委員からの意見について

資料3

### ◆主な意見・質疑

○売れる米づくりで1.9mmでふるった米は、今後どのように取り扱われるのか？

→1.9mmの島根米の品質、レベルアップを図る取り組み。1.9mmでふるったから特級とかいうことではない。島根米はどこを見てもきちっとした品質でそろった米が出てくるということ、消費者や受注者にアピールするために、島根米の品質向上を図り、1.9mmでふるったものを全体でそろえていきたい。

○新規就農者対策として、ぶどうのリースハウスの取り組みはとてもよかったが、空き園や荒廃地を利用したリフォームや、もっとシンプルでお金のかからないリースハウス建設の取り組みを考えてほしい。私たちも、リフォームなどお金のかからない投資をしながら、経営を続けていけるような支援がほしい。

→次期プランの中で、リースハウスを中心にしながら、地域にある資源をうまく活用し、その地域にあった仕組みを考え整備していくことに取り組んでいく。

○自営就農、雇用就農どちらの場合も「経営する」ことに対する勉強は必要。取り組みを進めてほしい。

→農林大学校では、経営、マーケティングの講義を行っている。また、法人協会会員の方の協力を得て特別講義も行っている。農業者を対象としたアグリビジネススクールも2年目。今年から女子コースも設け、経営者、リーダーとして必要な要素を学んでもらっている。今後も取り組んでいきたい。

○鳥獣対策は地域全体での協力した取り組みが必要。専門の人員を県だけではなく、市町村にも増やしてほしい。

→県では、被害の大きい地域に専門職員を配置している。市町村でも、人材確保の必要性は感じており、配置する動きが出ている。

○プロジェクトは、今後の情勢の変化に柔軟に対応していくことが必要。T P Pに絡んでは、国の施策は大規模向け。島根県のような中山間地域を多く抱えたところでは、国の施策だけでは対応しきれない。

→国の補正予算を最大限に活用しながら、中山間地域の足りない部分については、必要に応じて要望をしていきたい。プロジェクトについても関係者と相談しながら進めていきたい。

(2) 島根県農業振興地域整備基本方針の変更について  
県側から説明。 資料4

◆主な意見・質疑

○都市農業基本法ができて、影響するようなことはないか。

→特になし。

#### 4. 報告事項

(1) 平成28年度主要事業について

県側から説明。 資料5

◆主な意見・質疑

○6次産業化のアドバイザー派遣事業はよかった。6次産業化をもっと推進してほしい。

○地産地消推進事業のマルシェの支援は？

→マルシェの支援については、まずは県HPでPRする。

○島根米のおいしさの見える化、PRを県はしっかりして欲しい。

#### 5. 閉会